

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援ルームPLANET		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 9日		2026年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 26日		2026年 2月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p><b>支援の提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の宿題や学習プログラムに合わせた支援を行っています。</li> <li>・作業療法士による発達支援や、運動機能向上を目指したプログラムを提供しています。</li> <li>・看護師が常駐し、健康管理や医療的ケアが必要な子どもへの対応も行っていきます。</li> <li>・保育士や児童指導員等も療育やプログラムに参加し、多職種の視点から、子どもたちへの支援を行っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが楽しみながら取り組めるよう、遊びを取り入れたプログラムを意識的に設計し、自主性や意欲を引き出す工夫をしています。</li> <li>・日々の観察を通じて、子どもたちの体調や健康状態を細やかに把握し、保護者への適切な情報共有を行っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの成長に応じて小さな成功体験を積み重ねられるよう、具体的に達成可能な目標を設定していきます。</li> </ul>
2	<p><b>関係機関・保護者との連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳や口頭でのやり取りを通じて、子どものその日の様子を細かく共有。保護者からの質問や意見にも迅速に答え、双方のコミュニケーションを心がけています。</li> <li>・関係機関との定期的な会議（ケース会議など）を通じて、支援方針の確認や調整を行っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と定期的な面談を設け、支援内容や子どもの様子について直接話し合う機会を確保しています。</li> <li>・合同療育の機会や外部SVの活用をしています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師や療法士、教育関係者などとの関係をさらに深め、気軽に相談や情報交換ができるネットワークを形成していきたいと考えています。</li> </ul>
3	<p><b>スタッフ間の連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法士、看護師、保育士、児童指導員といった多様な専門職が在籍し、それぞれの専門知識やスキルを活かした支援を行っています。</li> <li>・スタッフ間で専門的な視点を共有し、連携することで、子どもの個別ニーズに合わせた質の高い支援を提供しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼や終礼を活用して、当日の予定や注意点、各スタッフの役割を確認し、スムーズに連携が取れる体制を整えています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフと管理者で、定期的に面談を行っています。</li> <li>・勉強会を実施し、知識を共有していきます。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p><b>支援の提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケアが必要な児童が多く利用していることもあり、社会参加やお出かけに対する支援が不足しがちになっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出先の環境が、医療的ケアを行う場として適切かどうか慎重に判断するのに時間がかかり、外出する時間や場所を慎重に考慮する必要があります。その結果、事業所内で行えるプログラムになることが多くなっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出場所のリストアップを行っていきたくと考えています。</li> <li>・学生ボランティアや地域の協力を得てリソースを得ていきたいと思っています。</li> <li>・家族参加型のお出かけの提案を行っていきたくと考えています。</li> </ul>
2	<p><b>関係機関・保護者との連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他事業所の情報を得る手段が限られており、主に家族（保護者）から聞き取りになってしまっています。そのため、他事業所がどのような支援を行っているのかが不明瞭な状況が課題となっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直接的に情報交換をする場がないため、他事業所での支援内容や進捗状況を把握するのに時間がかかっている状況です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、担当者会議などの拡充、特定の事業所との交流の機会を設けることができました。次年度は、定期的な開催機会の定着を図っていきたくと考えていきます。</li> </ul>
3	<p><b>スタッフの経験差を補い合う体制づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援の良さはありますが、関わり方に個人差がある状態となっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験年数や専門知識の差が生じています。</li> <li>・振り返りや共有は行っていますが、現場での実践に結びつくまでには差があり、支援の安定化に難しさが見られています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部研修や振り返りの機会を設け、支援視点の共有とスキル向上を図っていきます。</li> <li>・外部SVを活用して改善を図っていきます。</li> </ul>